

## 大分大学 男女共同参画セミナーを開催しました（10月9日）

10月9日（火）、大分大学男女共同参画公開セミナーを開催し、本学関係者、行政関係、一般市民の方など約100名が参加しました。

嘉目克彦理事による開会挨拶の後、松浦恵子女性研究者サポート室長が大分大学における女性研究者支援事業についての説明を行いました。

続いて本学の女性研究者2名が発表を行いました。平成23年度研究奨励賞の最優秀賞を受賞した荻野千砂子講師（教育福祉科学部）は、「琉球語に残る日本の古語」と題した発表を行いました。「琉球語は、現代日本では使われなくなった日本語と、用語や文法における共通点が多く存在するため、さらに琉球語を研究することで日本語の文法の解明に繋がりたい」と話されました。

平成24年度秋季国際学会派遣支援を受けた寺町芳子教授（医学部）は、「看護実践の質を高めるための研究へのチャレンジ」と題し、“インフォームドコンセントにおける患者・医師・看護師の協働モデル”を、ご自身の看護師としての経験を織り交ぜながら発表され、「医療の場面で三者が協働する必要性だけでなく、研究・教育をとおして、看護の質向上に貢献していきたい」と話されました。この発表は派遣支援により参加した国際学会で、ポスター賞を受賞されました。

特別講演には、脳機能開発分野の第一人者である東北大学加齢医学研究所教授の川島隆太氏をお招きし、「脳を知り、脳を育み、脳を鍛える ～脳科学から見る男女共同参画の意義～」との題で講演していただきました。川島講師は、「生活習慣が脳の発達に影響する。男女ともにワークライフバランスを大事にすることは、未来に育つ子どもたちのきちんとした人生をつくることに繋がる」と、睡眠や朝食などの生活習慣が脳に与える影響と男女共同参画との関係について詳しく話されました。



## 女性研究者奨励賞授賞式を行いました

10月18日、学長室において第3回女性研究者奨励賞授賞式が行われ、北野正剛学長より奨励賞受賞者に表彰状が授与されました。併せて、平成24年度春季および秋季学会派遣支援採択者に、決定通知書が渡されました。

北野学長は、出席者18名を前に、「今後、ますます研究活動に活躍し、大分大学を盛り立ててください」とあいさつされました。

今年度の研究奨励賞受賞者および学会派遣支援採択者数は次のとおりです。

- ・第3回女性研究者奨励賞 9名（教員6名、大学院生3名）
- ・平成24年度春季学会派遣 国内学会 4名（教員3名、大学院生1名）
- ・平成24年度秋季学会派遣 国際学会 3名 国内学会5名（教員2名、大学院生6名）



## 学長と女性研究者との懇談会を行いました

北野正剛学長と女性研究者（女性研究者奨励賞等授賞式出席者）との懇談会が授賞式後に行われました。

初めに、出席者が自身の研究内容を説明し、北野学長が一人一人に向けてコメントされました。次に出席者が、女性研究者の現状課題や支援に対する要望などについて述べました。現在行われている奨励賞・学会派遣支援や研究サポーター制度などの支援の来年度以降の継続や、病児保育の早期実現、院内保育園の定数増加などについての要望が出ました。

北野学長は、「皆さんの意見を参考にし、大分大学をあげて支援体制を整備していきたい。優秀な研究者が大分大学を目指し、研究活動が活性化されるよう頑張りたい」と話されました。



# 女性研究者支援に関する学部長からのメッセージをいただきました。

## 教育福祉科学部長 柳井 智彦



教育福祉科学部の女性教員の比率は18%であり、大学全体の平均16%をやや上回っている。また、大学院生の女性比率は46%とかなり高いといえる。さらに、学部学生では71%が女子学生である。すなわち、本学部は女性が研究・教育する場、女性が学習する場としてある程度の期待には応えていると思われるが、特に女性教員の採用については今後も「男女共同参画社会基本法」の趣旨に則って積極的な採用を進めたい。

私の専門である外国語教育・言語研究の分野では、特に外国の研究者に女性で世界的業績を上げている人が多い。私が最近参照している論文の著者も半数近くが女性である。また、我が国においてもこの分野の学会では女性による発表件数が多数ある。次世代を担う女性大学院生の発表も多い。しかし、家庭・家族を持ちつつ研究を進めていくことは、男女を問わず、時間的に苦勞、苦心の連続であろう。私の場合も子供が小学校から高校まで野球をやり、その保護者会長もやったことがあるので、家族のための時間と研究の実行とのやりくりで苦心した。研究者によっては、このような例とは比べられないほどのご苦勞をされている方もいらっしゃるであろう。

女性研究者の研究・教育を支援するために何ができるのか、これを機にさらに考えていきたい。まずは、教授会をはじめとする会議を効率的に進めて、研究に費やせる時間、男女が共に家事や育児にかかわれる時間をより多く確保するといった努力から始めたいと思う。

## 経済学部長 市原 宏一



経済学部における、男女共同はこの間、質的にも量的にも変化してきました。教員について言えば、20数年前には、教員総数の差異もありますが、女性教員は助手ポストに2人のみでした。その後、1980年代末から女性教員の採用が増加していくようになります。ただし当初は語学等の教養教育を中心としていました。1990年代に入り、教養教育の改組、地域システム学科開設等の学部改組の展開もあって、専門教育課程、すなわち社会科学系の分野にも女性の採用が増加していきます。現在では、社会科学分野の中でもとりわけ経営学、法律学分野で複数の女性教員が勤務し、教員総数59人中9人と1割を上回り、教授等の職位も多様になってきています。

そもそも、国立大の社会科学分野の教員における女性比率は助手でこそ8割を超えていますが、それ以外の職名では多くても3割、教授では1割を切っています(2012年国大協調査)。とりわけ商学・経済学関係学部教員(助手を除く)の女性比率は、社会科学系の中でもっとも低く、講師で1割、教授でようやく1%を上回るという状態でした(2007年国大協調査)。これらを踏まえると、残念ながら、本学経済学部も全国的な商学・経済学系における傾向と大きく異なるという状況ではありません。学生についても、経済学経営学は女子学生比率26.4%(2007年国大協調査)と低い分野です。ただし、本学経済学部の場合、上野から旦野原への移転の頃に、次第に女子学生比率が増加していきました。現在では大学院・学部とも学生総数の4割を超える状況に至っています。

他大学に比して低くはない女子学生比率を踏まえると、上述した教員比率も他大学並み・社会科学系一般並びに高まっているとはいえ、なお課題を持つものと考えられます。そうした中で、今回、本研究院院生に「女性研究者支援のための学会派遣支援」が措置されたことは、多面的な支援のあり方として重要な契機となったといえましょう。全学的な共同参画の展開と支援を背景としながら、本学部における取組の一層の展開を検討していきたいと考えています。

### 「女性研究者と語ろう」を開催しました【8月8日(水)】

大分大学オープンキャンパス開催当日、旦野原および挾間キャンパスにおいて、「女性研究者と語ろう」を開催しました。

旦野原キャンパスでは、教育福祉科学部、経済学部および工学部の女性教員に加え、工学部の女性大学院生も加わり、研究の魅力、大学で研究するという進路があることや自身の進路決定のきっかけなどについて語りました。また、「女性教授の研究室を覗こう」も開催しました。理系女子(リケジョ)に興味のある高校生が一二三恵美教授の研究室を訪れ、学生から研究内容の説明や研究の面白さについて話を聞き、顕微鏡で細胞を観察するなどの体験をしました。

挾間キャンパスでは、医学科と看護学科にそれぞれブースを設け、森島真幸助教、サポート室の松浦室長および丸山コーディネーターから、研究者という進路や研究の大切さ、仕事と家庭の両立、大分大学での女性研究者支援体制などについての説明を行いました。



大分大学における各学部の学部長に女性研究者支援に関するお考えを伺いました。質問項目は以下の2点です。

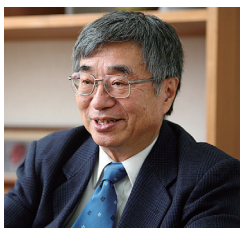
- 1) 貴学部での男女共同参画、特に女性研究者支援に対する意気込み
- 2) 貴学部での具体的取組と課題(女性研究者採用・昇進、両立支援、次世代育成等に関して)

### 医学部長 大橋 京一



医学部の学生で女性が占める割合は、医学科で40%前後であり、看護学科では90%以上になります。医師、看護師を含めて大学病院における医療を支えるためには女性医師、看護師の活躍が不可欠です。しかしながら女性研究員となるとまだ少ないのが現状です。医学部・附属病院の役割の一つとして、新しい治療につながる基礎並びに臨床研究を推進して行く事だと思っています。全国的に研究医が減少傾向にあり、医学部が社会の要請に応えるためには研究医の養成が求められています。研究能力や医学の技術習得には性差はありません。女性研究医が増加することに医学部として力を尽くしたいと思っています。女性研究者が継続して基礎あるいは臨床研究を遂行するためには環境整備が必要です。医学部では子供を持つ女性医師、看護師、研究者のために、現在設置している保育園の拡充を進めています。また、病児保育室を新設予定で、安心して研究や業務に取り組める環境整備を進めています。私は研究や医療の分野では、女性医師、看護師、研究者が社会進出する障壁は比較的少ないと思っています。しかしながら、特に研究の領域で昇進するためには業績が必要になります。医学部では女性研究者の研究を支援するために、研究補助員を雇用し、メンター制度を導入し、科研費などの外部資金獲得を推進しています。これらの取り組みを通して、女性研究員の昇進を促し、女性研究者が増加してくれることが、医学部の活性化につながるものと思っています。今後、世界的な女性研究者が育つ事を望んでいます。

### 工学部長 井上 正文



現在、工学部での女性教員比率は6.7%です。国立大学工学系学部の中ではトップクラスの数値であるといえます。この数値でトップクラスというのは、とりもなおさず全国的に工学分野において、女性研究者あるいは女性研究者予備軍が極めて少数であることを示しているともいえます。しかし、男女共同参画社会の実現という観点からいうと、本学工学部のこの数値をもってしても女性教員比率として十分なものではないことも事実です。

男女を問わず全国的にも学部受験生の理系離れ、とりわけ工学系離れが顕在化しており、いずれの工学系学部もその対応に苦慮しているのが現状です。このままでは技術立国を自認するわが国の技術力基盤を揺るがしかねないとの強い危惧の声も政府・産業界を中心に上がっています。このような状況の中、優秀な女子の学部受験生の増加はとりわけ重要との認識です。女子入学者の増加は入学者のレベルアップにもつながるものと確信しており、このことは過去の入試結果からもみてとれます。これまでの女子入学者の学習の様子から女子受験生の中にも<ものづくり>に強い興味をもつ多くの学生がいることを我々も経験的に認識しており、ホームページ・広報パンフレット・出前講義等を通じてこれらの女子受験生への呼びかけを一層強めていきたいと思っています。

また、現在の大学院(博士前期課程)への進学率において女子学部生のそれは男子学部のそれを下回っている現状から女子学部生の大学院進学率の向上も喫緊の課題でしょう。

女子学部生の大学院進学率の増加・女性教員増加に対する一連の取組は、女子学生・女子受験生へのロールモデルともなりえると考えています。これら一連の取組の短期的な達成は容易ではないにしても長期的視点にたてば、必ずや実を結ぶものと確信しています。学部内では、数少ない女性研究者及びその予備軍の発掘や目配りの努力を呼びかけているところです。また、採用・昇進についても男女間の取り扱いはまったく同列であり、教員公募で男女同レベルの候補者が出た場合は女性優先とすることも十分にコンセンサスが得られているとの認識です。

工学分野全体では、女性研究者数が他分野に比して少ないにしろ、女性研究者数に凸凹が存在することも事実です。一定数の女性教員及びその候補者が存在する工学専門分野での女性研究者発掘の集中的取組も効果的との認識です。今後は、短期的取組と中期的取組とを車の両輪として、女性教員増加に向けての一層の努力を行っていく所存です。

### 女性研究者によるサイエンスセミナーを開催しました【7月27日(金)】

本学を卒業した、(独)放射線医学総合研究所 研究基盤センター 研究基盤技術部室長の荒木 良子氏を講師としてお招きし、「人工多能性幹細胞(iPS細胞)の医学応用に向けた基礎的研究 ～点突然変異と免疫原性～」と題して、サイエンスセミナーを開催しました。セミナーには、本学の教職員や学生以外に、科学系人材の育成を目指す「大分スーパーサイエンスコンソーシアム」の中心となって活動している大分舞鶴高校の生徒の皆さん25名も参加しました。荒木講師は、iPS細胞の医学応用が期待されている中、安全性を今後基礎的研究で解明していかなければならないことなど、高校生にもわかりやすく説明され、研究とはどういうものか、研究の楽しさや厳しさを教えていただきました。



# 九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムin大分 開催のお知らせ

九州・沖縄アイランド 女性研究者支援シンポジウム in大分

## つづけること、つながること 九州・沖縄の絆のちから

～ 研究者が能力を発揮して輝くために ～

### 特別講演

地域社会で育む女性研究者支援のための特別講演

## 「銀座のママから学ぶ人間力」

講演者: 白坂 亜紀氏 (大分県竹田市出身)

### 開催日時

平成24年12月15日(土) 13:00～17:00

※事前申込み制, 定員100名, 入場無料

※託児あり

### 開催場所

レンブラントホテル大分 久住の間

### 対象

一般及び大学関係者

### 申し込み方法

電話、FAXまたはEメールにて女性研究者サポート室まで下記問い合わせ先にお申し込みください。

第4回  
九州・沖縄アイランド 女性研究者支援シンポジウム in大分  
つづけること、つながること  
九州・沖縄の絆のちから  
～ 研究者が能力を発揮して輝くために ～

日時 2012.12.15 (土) 13:00～17:00  
場所 レンブラントホテル大分 久住の間  
参加者 一般及び大学関係者 (事前申込み制 定員100名)  
特別講演 地域社会で育む女性研究者支援のための特別講演  
「銀座のママから学ぶ人間力」  
白坂 亜紀氏 (大分県竹田市出身)  
\*プログラムの詳細は裏面をご覧ください\*

入場無料  
※託児あり

大分大学 (男女共同参画推進本部・女性研究者サポート室)  
熊本大学 (男女共同参画推進室)  
九州大学 (女性研究者サポーター養成センター)  
香川大学 (道花アリア男女共同参画推進室)  
広島大学 (男女共同参画推進室)  
長崎大学 (男女共同参画推進センター)  
鹿児島大学 (男女共同参画推進センター)  
琉球大学 (男女共同参画室)  
福岡大学 (次世代女性研究者研究活動支援室)  
沖縄科学技術大学院大学 (人材多様化センター)  
大分県・大分市・大分合同商社・NHK(大分放送局)・OBS(大分放送)  
TBSテレビ大分・OAB(大分朝日放送)

大分大学女性研究者サポート室  
〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地  
TEL 097-554-6573 FAX 097-554-6039  
E-mail fsupport@oita-u.ac.jp  
URL http://www.fab.oita-u.ac.jp/  
電話 FAX (裏面用紙) またはEメールにて上記お問い合わせ先にお申し込みください。

## ロールモデル誌「大分大学の輝く女性研究者Vol.2」を 発行しました

ロールモデル誌の2冊目を発行いたしました。この冊子では、25人の女性研究者を紹介しています。1冊目とあわせると、大分大学の女性研究者を44人紹介できたこととなります。

ロールモデル誌をご希望の方は、女性研究者サポート室までお問い合わせください。



### 編集後記

今年も残すところあと少しですが、12月15日の九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムの準備のほかに、いろいろな業務が重なってサポート室員は慌ただしい日々を過ごしています。みなさま、よいお年をお迎えください。



編集・発行元 / 発行日 2012年12月  
国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室 "FAB" Female Academics at Bundai  
〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地 TEL (097) 554-8573 FAX (097) 554-6039  
E-mail: fsupport@oita-u.ac.jp http://www.fab.oita-u.ac.jp/

